

牧之原市がめざす教育

牧之原市教育委員会学校教育課

お伝えする内容

- 1 教育の現状
- 2 牧之原市の目指す教育について
- 3 起郷家教育（キャリア教育）について
- 4 小中一貫教育について



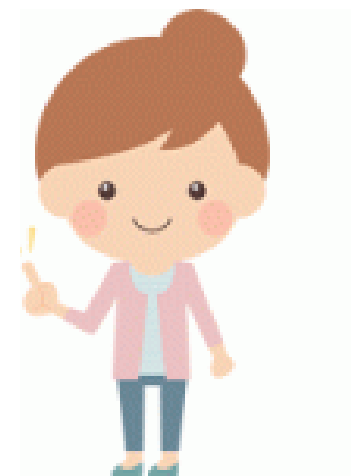
お伝えする内容

1 教育の現状

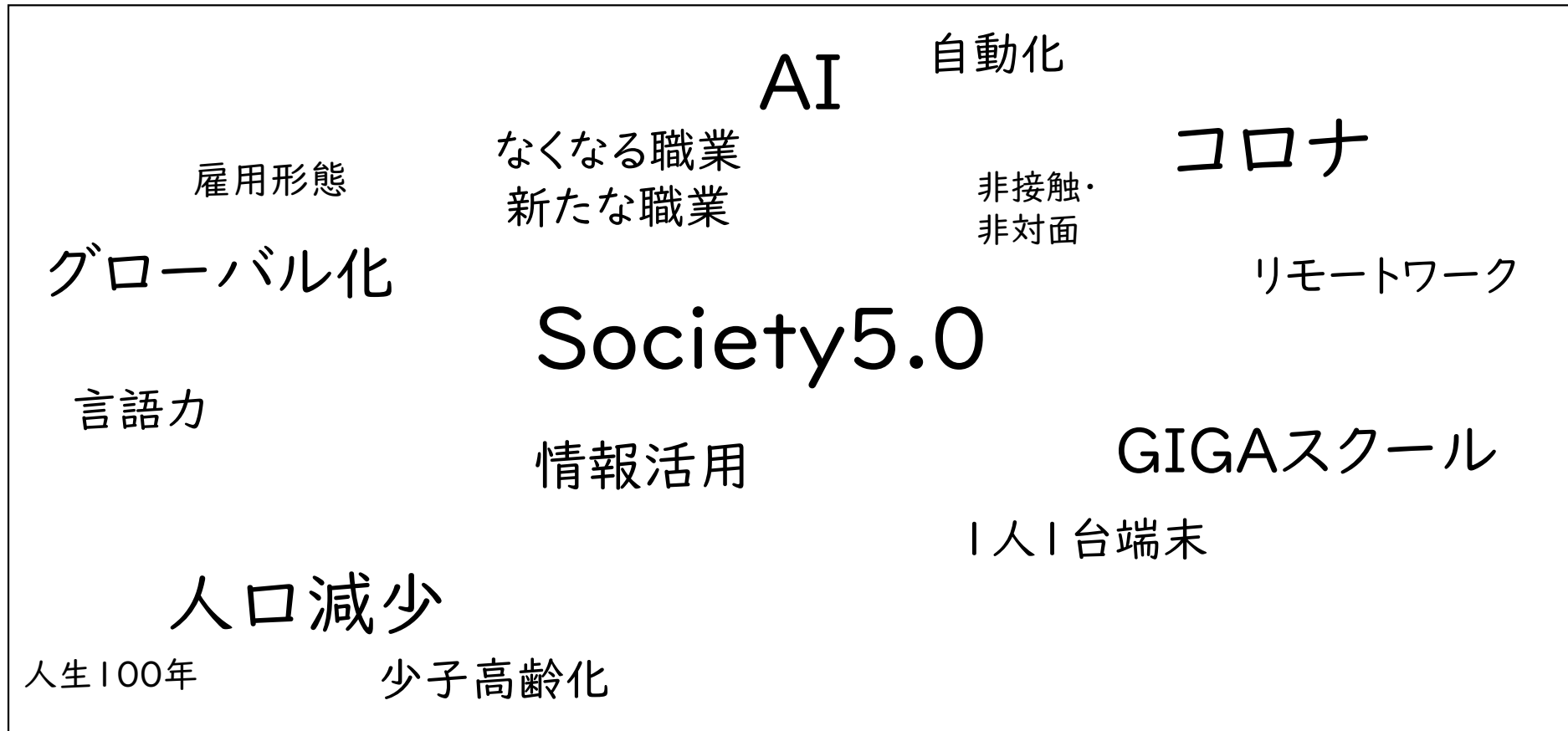
2 牧之原市の目指す教育について

3 起郷家教育（キャリア教育）について

4 小中一貫教育について



社会の変化



今学習指導要領で求められる力とは

何を知っているか、
何ができるか
(個別の知識・技能)

知っていること・できることを
どう使うか
(思考力・判断力・表現力)

どのように社会・世界と関わり
よりよい人生を送るか
(学びに向かう力・人間性等)



将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会
グローバル化が進展する社会

変化にしなやかに対応し
たくましく生き抜いていく力

これからの教育

これまでの教育

- ▶ 読み書きそろばんの基礎学力
- ▶ 暗記の多さ
- ▶ 正解主義

これからの教育

- ▶ 知識を実社会で応用させるための能力
- ▶ 汎用力の高さ
- ▶ 多様で多角的な視点をもつ

- 知識だけあればよいのではなく、それを実社会で生かすことを意識した学びに変わっている
- 正解がひとつではない時代（最適解）

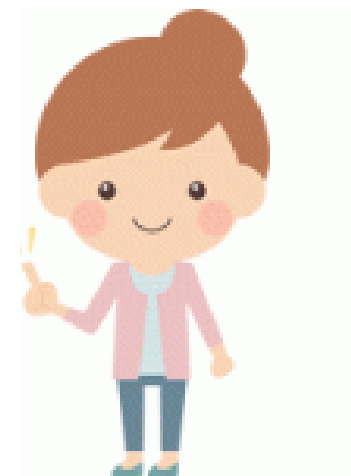
お伝えする内容

1 教育の現状

2 牧之原市の目指す教育について

3 起郷家教育（キャリア教育）について

4 小中一貫教育について



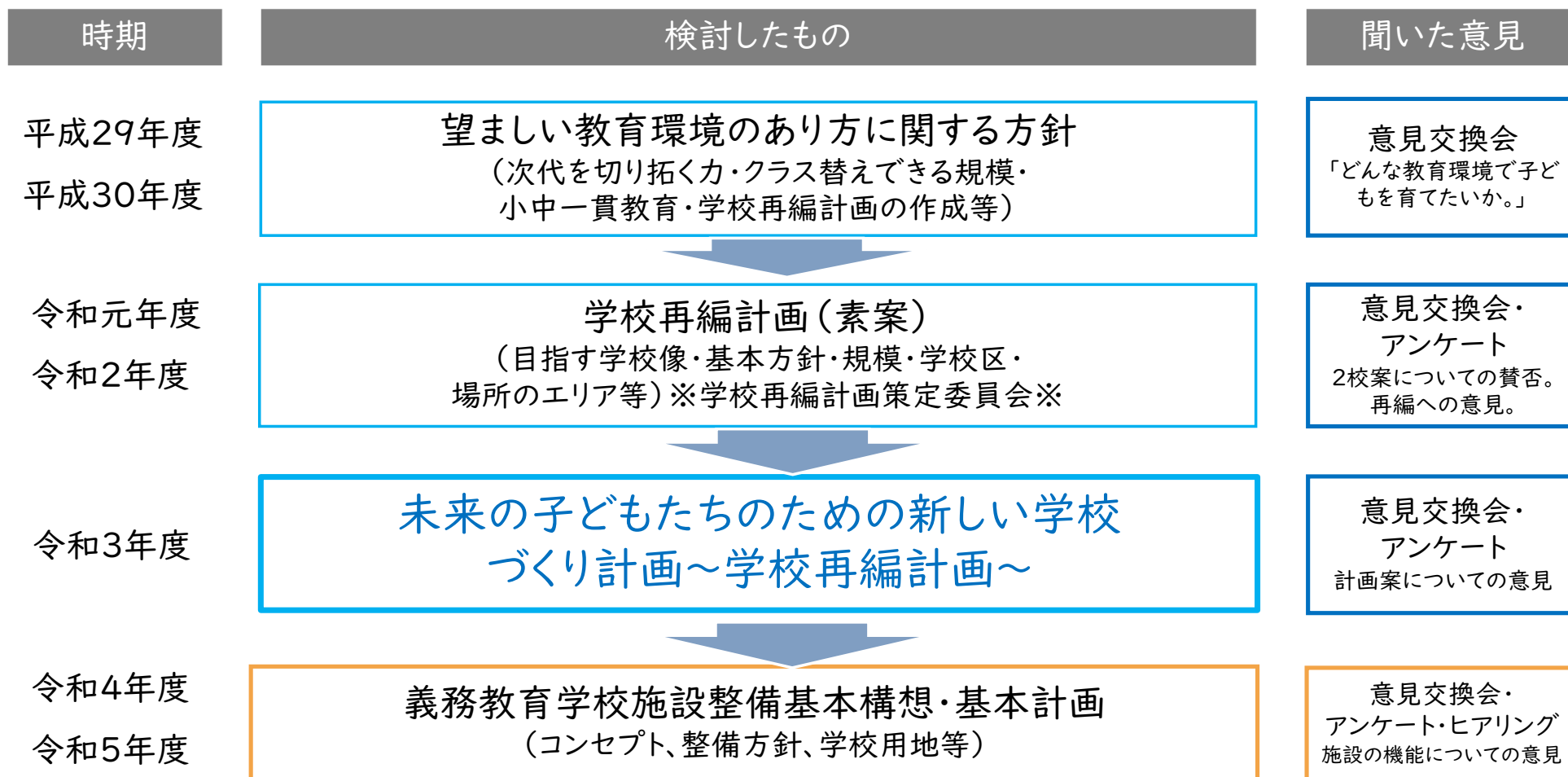
2 望ましい教育環境のあり方に関する方針と 学校再編計画



子どもたちとの新しい学校をデザインするWS

現在までの流れ

※詳細は別紙参照



方針で目指すもの

子どもたちに付けたい力＝次代を切り拓く力

- 社会がどのように変わっても主体的にたくましく生き抜くことができる人間力（主体性・コミュニケーション力等）
- 社会の変化に適応するだけでなく、新たな価値を創造し、よりよい将来を創り出すことができる

- 
- 年代や価値観、能力等が違うさまざまな多くの人と出会う・触れ合う
 - 授業で学んだことを生活や社会と結びつけて考えたり、生かしたり、チャレンジしたりする

9年間のつながりを意識した授業で

牧之原市が義務教育9年間で育てたい資質・能力

次代を切り拓く力

起郷家(キャリア)教育で

活用力

- 情報の理解・選択・処理:必要な情報を選択・活用し、自己の生き方を考える
- 将来設計:様々な選択肢について比較検討をし、自らにふさわしい選択・決定を行う

自分が学習したことや得た情報等を実生活や自分の将来に活かすことができる力

創り出す力

- 計画立案:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備をする
- 主体性:物事に進んで取り組む

新しい考えやアイデアを創り出し、主体的に実行する力

課題発見・解決力

- 課題発見:現状を分析し目的や課題を明らかにする
- レジリエンス:困難な状況でもしなやかに対応する
- 実行力:課題解決に取り組む

疑問をもち、自分で考え、他者と協働して、解決に向けて行動したり、新たな価値を生み出したりすることができる力

多様性を受容する力

- 他者理解:他者の多様な個性を理解し、互いに認め合う
- 多様性の理解:職業や勤労に対する広範な見方・考え方を持つ
- チームビルディング:他者と協調・協働して行動できる

自分自身を知り、他者(社会)にはさまざまな価値観や文化、背景、立場があることを理解し、受け入れることができる力

コミュニケーション力

- 他者への働きかけ:他人に働きかけ巻き込む
- コミュニケーション力:多様な集団・組織の中で豊かな人間関係を築く

相互に思いや考えを伝え合い、聴き合い、共感しながら、よりよい関係を築く力

生きる力の基礎・基本

心身のたくましさ、自己肯定感や命の大切さなど、人が生きていく上で大切な部分

- 自己理解:自己理解を深め、自分らしい生き方や成功を追求する
- 判断力:自らにふさわしい選択・決定を行う



基礎的な知識・技能

学校などで学ぶ知識や技能のことであり、考え行動する上での基礎・基本となる力

- 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解
:学校で学ぶこと社会・職業生活との関連で理解する
- 各教科の授業で身に付ける知識や技能

次代を切り拓く力を付けるために牧之原市では

キャリア教育を軸とした小中一貫教育と社会全体で子どもを育てる仕組みの実現

キャリア教育

自分の考えを伝える、主体的に行動できるなど、社会で生きていくための基礎をつくる、「自分の生き方を考える教育」

小中一貫教育

小学校と中学校を別々でなく、1つとして捉え、9年間の連続的・系統的な教育を行うもの。

社会全体で子どもを育てる仕組み

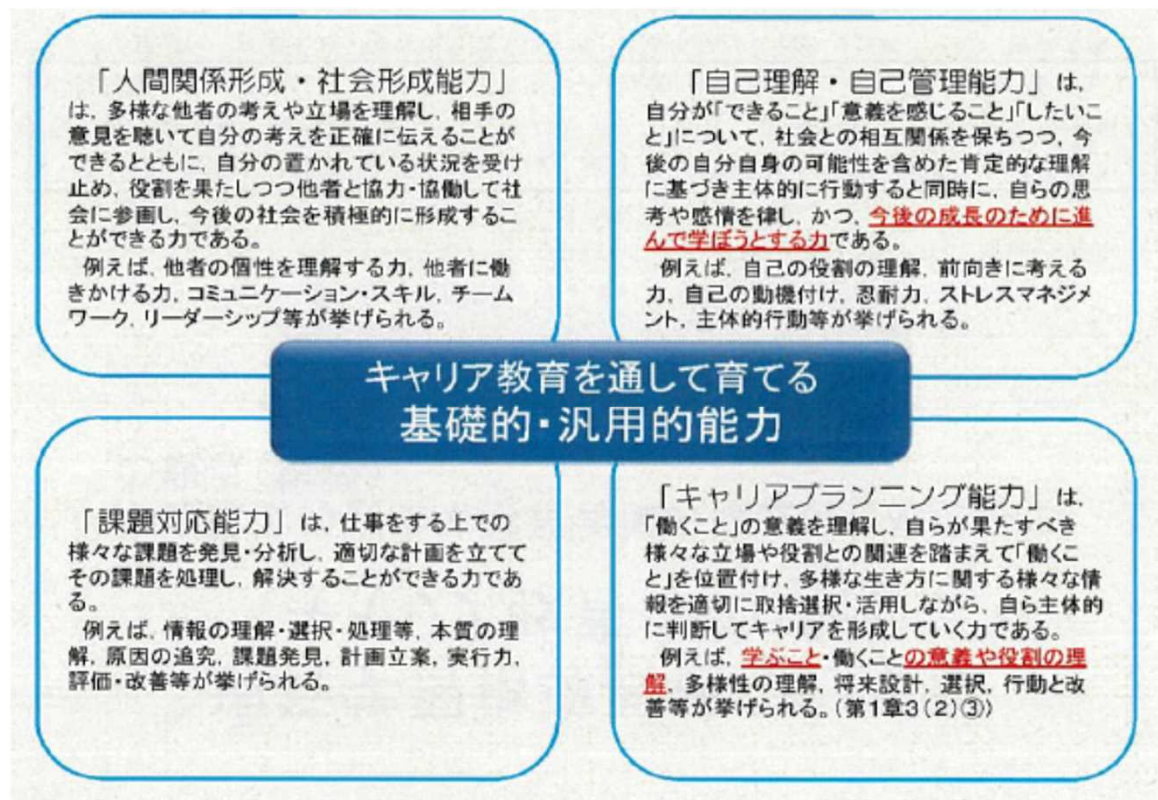
学校だけでなく、地域の子どもをみんなで育てる「コミュニティ・スクール」

お伝えする内容

- 1 教育の現状
- 2 牧之原市の目指す教育について
- 3 起郷家教育（キャリア教育）について**
- 4 小中一貫教育について



キャリア教育＝生き方教育



次代を切り拓く力を育むのに必要な資質・能力がキャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力とほぼ同じことからキャリア教育を軸に。



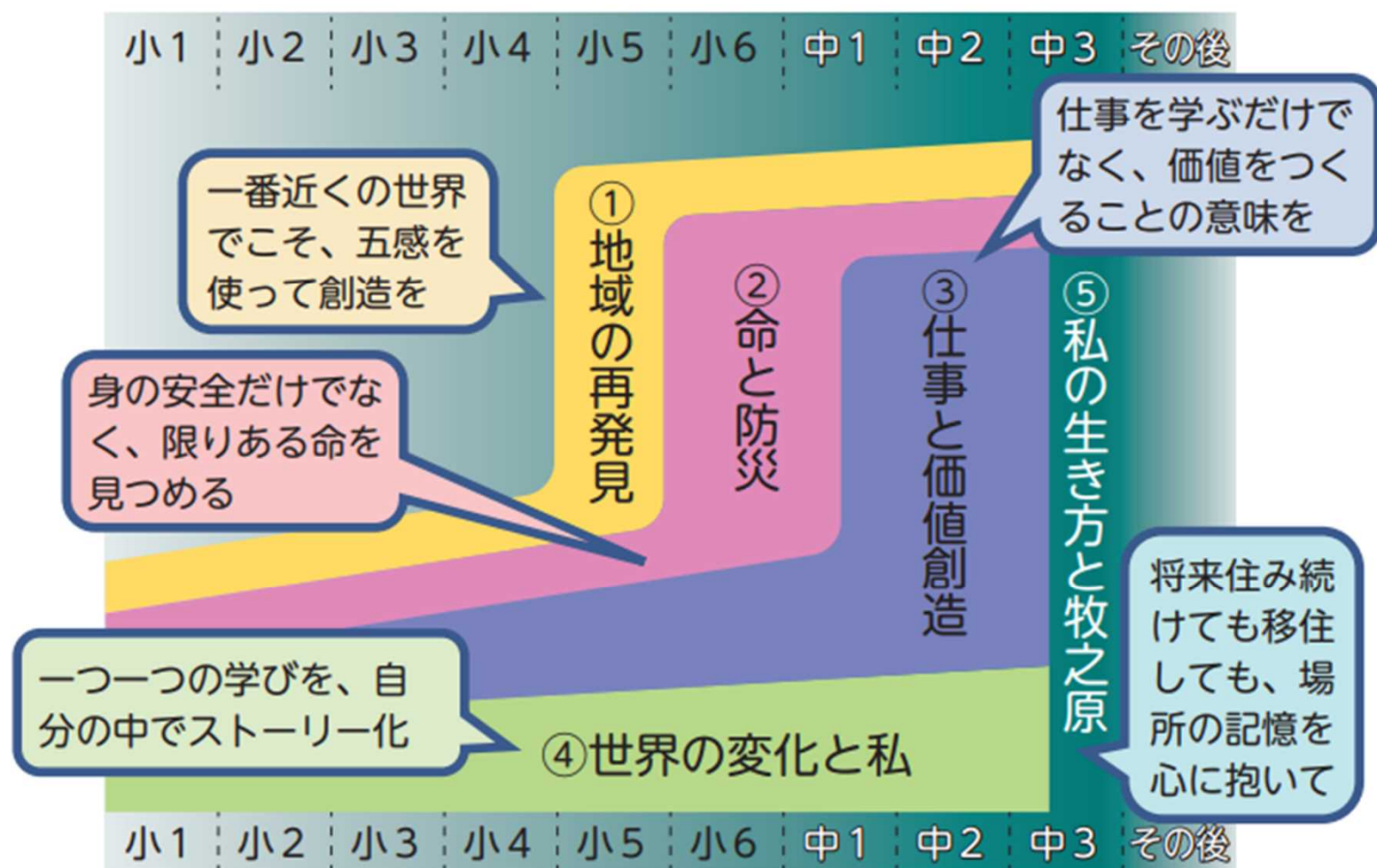
・牧之原市版キャリア教育

「起郷家(きごうか)＝郷に学び、将来を見通し、自ら行動を起こす人」を育成するため、小中学校の9年間を通したキャリア教育をスタート

次代を切り拓く力

き ごう か
起郷家

郷に学び、将来を見通し、
自ら行動を起こす子



地域の再発見 アースランチ創造

自分と食物の関係を体験的に学ぶ



経験したこと
1 から育てること



気付いたこと
自分たちで育てる
ことの大変さを感じ
ました。

地域の良さを再発見

作り出す楽しさ

料理名

坂部の魅力と愛情がつまった SKB大福



料理の概要(がいよう)説明

地域の方々に手伝ってもらいながら作ったお米が使われています。この真っ白で甘〜いお米をお餅にしました。そのお餅で、坂部産の甘酸っぱい極早生みかん・真っ赤ないちご・とっても甘いさつまいもを包み、上からお茶の粉をふりかけます。さつまいもあんの甘さ・いちごの甘酸っぱさ・あっさりしたみかんが相性抜群！一緒に食べると優しい味になって、坂部の皆さんの優しさを感じられます。

「SKB大福」という名前には、坂部の地域の皆さんの協力と愛情がつまっています！

課題発見

このお話を聞いてくれる方
たちへ

食品ロスをなく
すことは、
家でもできる。

伝える力



枝豆をもっとおいしく
別の料理に

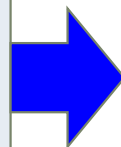
身近なところに
解決する方法は
たくさんあること
に気づきました。



食べ物を使い切る
ことや**余った食べ
物を料理に使う。**

命と防災

小学校6年生 「自助」の学び



中学校1年生 「共助」の学び

防災新聞

身の回りの災害

枚之原市には自然がいっぱいあっていいところだけ、川の氾濫や地震での土砂崩れなど、色々な危険があることを知った。

津波や地震だけでなく台風や竜巻、豪雨、暴風などのことにより起こる災害にも注意していかないといけないことがわかった。

災害から身を守るために

防災についての宿題で家族と家の防災について考える宿題がありました。

その話し合いや授業で聞いた話から災害から身を守るためには日頃から備えておくことが大切だとわかりました。

日頃から備えておくことで、災害時にしっかり行動することができ、正確な判断をすることにつながることがわかりました。

災害に備えておくこと

日頃から災害に備えてできることってなんだろう？

- ・地域の防災訓練の参加
- ・家族との話し合い（避難経路や危険な場所の確認）
- ・非常食の確保（ローリングストック）
- ・怪我の防止対策
- ・地域の危険性の把握
- ・家具の落下、転倒などの対策
- ・消化の備え
- ・防災についての知識をつけておくこと

ローリングストックとは！

日常的に非常食を食べ、食べたら買い足すという行為を繰り返して、常に家庭に新しい非常食を備蓄する方法のことである！

結論

普段から備えておくことが大切

これから活かせること

これまで災害の勉強をして災害が起きたとき正確な判断ができるようにしたいです。また、避難所の生活はかかと不自由があると思うけど、自分のできることをしたいです。普段から自分は何かもしないのではなく災害、防災について考えておくことが大切だと思いました。

自分に関係ない。じゃなく、自分から積極的に参加していきたいです。



体験的に学び、実感する



避難所体験

自分にできることを考える



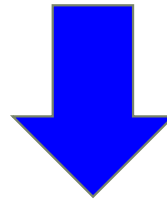
日頃から多くの方と
関わりのある中学生に



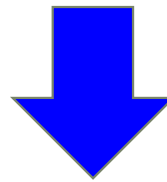
災害について、より多くの
人に知ってもらいたい

仕事と価値創造

令和6年度
市のプログラム作成（相良中で試行）



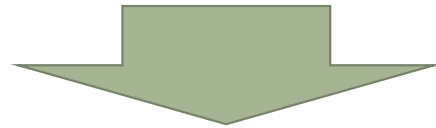
令和7年度
プログラムの試行（市内全校 中2～中3）



令和8年度
3中学校での実施

仕事と価値創造とは…

- どんな生き方ができたら幸せなのか
自らの価値観を見つめさらに高める



- 今 何ができるかを考え実践する



- 体験から自らの価値観を見つめ直す

お伝えする内容

- 1 教育の現状
- 2 牧之原市の目指す教育について
- 3 起郷家教育（キャリア教育）について
- 4 小中一貫教育について



中一ギャップって聞いたことありますか

◎新しい環境になじめないこと

- ・遅刻や早退が増える
- ・新たな人間関係がつかめない
- ・学習内容についていけない
- ・元気がなくなり孤立する



小中一貫教育で9年で子どもを育む

【小中一貫教育に期待する効果】

- 9年間の系統的、連続的な指導ができる
- 異学年交流がしやすく、子どもに上級生への憧れや敬い、下級生への思いやりの心などが育まれる。
- 生活のきまりや学習スタイルが9年間統一されることで、子どもが安心と期待を持って学校生活を送ることができる。→「中1ギャップ」緩和
- 一部教科担任制の導入がしやすい環境となり、専門性を持った教員が授業を行うことで、分かりやすく、つまずきにも丁寧な指導が受けられ、学力向上につながる。
- 個の学びや育ちを全教員で共有でき、指導しやすい。
- 小学校教員と中学校教員の良さが交わることで授業力の向上が図られる。



中学校区での小中一貫教育指定研究スタート

具体的には…

◎中学校区ごとに指定研究をし、連携を進めている

- ・令和2・3年…牧之原小中学校を指定

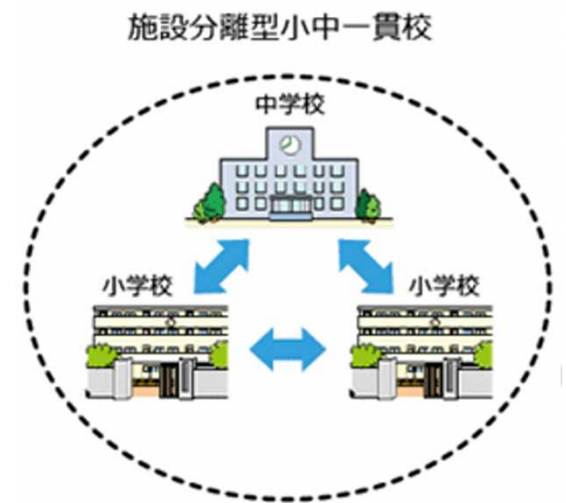
令和4年実践発表

- ・令和3・4年…榛原中学校区を指定

令和5年実践発表

- ・令和4・5年…相良中学校区を指定

令和6年実践発表



さらに…

◎小中連携事業（第2期）を本年度より実施

- ・令和6・7年 牧之原小中指定……令和8年実践発表
- ・令和7・8年 榛原中学校区指定…令和9年実践発表
- ・令和8・9年 相良中学校区指定…令和10年実践発表

実践例 牧之原小中学校



【令和2・3年度の取組】

- 先生方の研修を年数回一緒に実施する
- ◎グリーンロードを作成し、児童生徒の行き来をしやすくする
- お互いの授業を見合う（教師・児童生徒）
- 小6の体験入学を一日実施（一日フルに）

【令和6年の取組】

- 小学校で教科担任制導入（音楽・英語・算数で実施）
- ◎**牧之原小中一貫教育のあり方検討委員会設置**
（令和7年度に市教育委員会に提案予定）

実践例 相良中・榛原中学校区



○小中学校の授業を見合う（教職員）

○小中合同の研修の機会を設定

・研修（授業づくり） ・生徒指導 ・養護教諭 ・事務職員

○小一中連携 小一小連携の充実

課題：施設分離で学校間の距離があるため子供同士の交流が難しい

牧之原小中の小中一貫連携の実践を参考にできることを実施する

9年間の育ちを「資質・能力」でつなぐ
榛中学区連携構想

9年間のカリキュラムを意識した授業で

次代を切り拓く力

起郷家教育・キャリア教育で

2023.3.1版

コミュニティ・スクールで

学区の1中4小が「こころざしを育てる(次代を切り拓く力)」という同じ理念、同じ資質・能力を共有し、9年間で児童生徒を育てる(小中一貫教育)構想です

★注意★
 「施設一体型の義務教育学校」を念頭に置きつつも目的にならないように

活用能力
 自分が学習したことや得た情報等を実生活や自分の将来に活かすことができる力

創り出す力
 新しい考えやアイデアを創り出し、主体的に実行する力

課題発見・解決力
 疑問をもち、自分で考え、他者と協働して、解決に向けて行動したり、新たな価値を生み出したりすることができる力

多様性を受容する力
 自分自身を知り、他者(社会)にはさまざまな価値観や文化、背景、立場があることを理解し、受け入れることができる力

コミュニケーション力
 相互に思いや考えを伝え合い、聴き合い、共感しながら、よりよい関係を築く力

- 情報の理解・選択・処理:必要な情報を選択・活用し、自己の生き方を考える
- 将来設計:様々な選択肢について比較検討をし、自らにふさわしい選択・決定を行う
- 計画立案:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備をする
- 主体性:物事に進んで取り組む
- 課題発見:現状を分析し目的や課題を明らかにする
- レジリエンス:困難な状況でもしなやかに対応する
- 実行力:課題解決に取り組む
- 他者理解:他者の多様な個性を理解し、互いに認め合う
- 多様性の理解:職業や勤労に対する広範な見方・考え方を持つ
- チームビルディング:他者と協調・協働して行動できる
- 他者への働きかけ:他人に働きかけ巻き込む
- コミュニケーション力:多様な集団・組織の中で豊かな人間関係を築く



生きる力の基礎・基本

心身のたくましさ、自己肯定感や命の大切さなど、人が生きていく上で大切な部分

- 自己理解:自己理解を深め、自分らしい生き方や成功を追求する
- 判断力:自らにふさわしい選択・決定を行う

榛原中学区小中一貫教育目標 こころざしを育てる

基礎的な知識・技能

学校などで学ぶ知識や技能のことであり、考え行動する上での基礎・基本となる力

- 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解
 :学校で学ぶこと社会・職業生活との関連で理解する
- 各教科の授業で身に付ける知識や技能

榛原中学区連携(小中一貫教育推進)は…**主語は「今いる」児童生徒** ①A→A'となるために ②6-3制で固定された段差を発達段階や手段に応じて柔軟に調整するために
理念① 各校の教育課程を土台としつつも「次代を切り拓く力の資質・能力」を共通言語に、フィルターに、【資質・能力が身についたか】の視点で児童生徒を観る】
理念② 「やめる・変える(合わせる)・減らす」の視点をもって、【教育課程の効率化・スリム化】を図る

校長部会(◎***校長+校長)…小中一貫教育の進捗状況の把握と各部会への指導助言

推進部会(顧問:***校長 ◎***教頭+教頭+教務主任 主務:***T)…各部会の取組の企画と調整

★重要★
 理念①②を共有した上で
 各校・各専門部は手立てを講じる

研修部会(◎**教頭 主務:**T)		生徒指導部会(◎**教頭 主務:**T)		養護教諭部会(◎**教頭 主務:**T)		事務職員部会(◎統括室長)	
令和5年度に取り組むこと ()		令和5年度に取り組むこと ()		令和5年度に取り組むこと ()		令和5年度に取り組むこと ()	
	榛原中	川崎小	細江小	勝間田小	坂部小		
学校教育目標	こころざしを育てる	正しく 豊かに たくましく	強く 正しく すこやかに	かしこさ ありがたさ しなやかさ	心豊かで たくましい坂部の子		
令和5年度 重点目標・合言葉	自分を鍛え 他を思いやる	伝え合おう	考えて♡ 行動しよう	「一歩先へ」	夢中になって とともに取り組む子		
窓口※とする 資質・能力	生きる力の基礎・基本 (自己理解)	多様性を受容する力 (他社理解)	課題発見・解決力 コミュニケーション力	課題発見・解決力 (レジリエンス)	基礎的な知識・技能		
教務主任部会(◎**教頭 主務:**T)		★小中一貫教育の挑戦★ 「資質・能力」を育む意図的な活動・手立てを計画する					
令和5年度に取り組むこと 事業の日程調整と実施内容の検討		教職員 授業を参観し合う機会(7月・9月)	教職員 夏季合同研(8月)	児童生徒 1日体験入学(11月)	児童生徒 こころざしを語る会(3月)	教職員 事前研への参加(新規)	児童生徒 小小交流学習(新規)

資質・能力を「窓口」に児童生徒のあらわれを観る イメージ

話すことが苦手なAさんは、Bさんの説明を聞いて、図と文章をノートに記述して、自分なりの方法で説明しようとしていたよ。
生徒の特性・発達段階に合った方法(=「自己理解」)で説明させていたね。

榛原中学区小中一貫教育目標
こころざしを育てる

ひとまわりの学び
(児童生徒の姿)

●●先生の「Bさんの発言を自分の言葉で説明してみよう」は、「主体性」を伸ばすかわり方だったなあ。
小学校で積み重ねたものがつながるように、中学校社会科でも取り入れてみよう。

○ 中学校社会科の教科担任として、小学校5年生の算数の授業と共有できる「主体性」を育てる手立てを考えながら観よう



○ 榛原中は「自己理解」を窓口に教育活動を行っているから、小学校との発達段階の違いをふまえて授業を観てみよう

△ 小学生は元気があっていいですね

△ 担当教科が違うから、よくわからないな

静岡大学教育学部副学部長・村山功先生より提供いただいた『観点別評価の考え方』を参考に作成しました。「資質・能力」の部分を「思考・判断・表現」や「知識・理解」に置き換えると『観点別評価の考え方』になります。

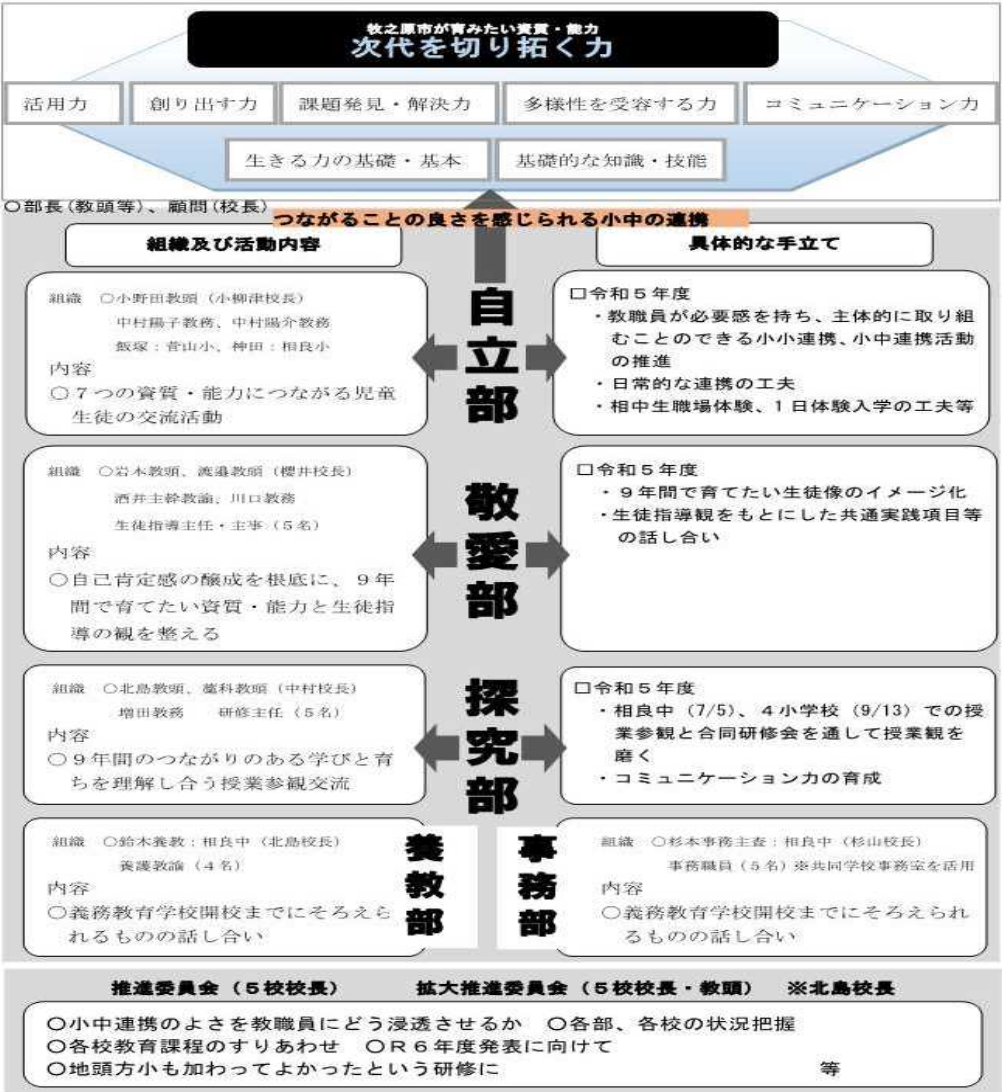
△ 中学校の授業って静かだなあ

△ 中学校の授業って専門的でよくわからないな





相良地区小中連携構想図（最終版）



牧之原市がめざす教育

牧之原市教育委員会学校教育課

終了です

ご清聴ありがとうございました